

取り組み5 住民による応急給水訓練

自主防災組織など応急給水拠点を開設し、応急給水に必要な技能を習得できるように、定期的に給水研修を行っています。取り組み4で紹介

したように職員がいなくても、住民の力で始められる給水施設が増えるので、日ごろからの訓練が必要です。



■自主防災組織による
組み立て・給水研修
(野川第3公園)



■給水タンク車を使った
応急給水訓練

取り組み6 「1人1日3リットル3日分」 家庭備蓄の広報推進

上下水道局による応急給水拠点の整備は進んでいますが、住民である私たちの家庭での備えも大切なことは言うまでもありません。

上下水道局では、各家庭の取り組みとして、生命維持に必要な「1人1日3リットル3日分」を備蓄する広報を促進しています。

1人1日分恵水500mL×6本=3L



「季刊 防災ニュース」に関するお問合せは、宮前区役所危機管理担当(856-3114)まで
バックナンバーは、宮前区役所ホームページ⇒安全安心のまちづくり⇒「防災ニュースのページ」でご覧いただけます。



季刊

防災ニュース

2014.11
第25号

宮前区役所危機管理担当/宮前区まちづくり協議会防災部会

◆吊り上げても抜けない耐震管
市立中学校、医療機関などの重要な
防災拠点への供給ルートなどに使用し、
給水の確実性の向上を図っています。



防災ニュース3号連続企画

3 大インフラの 防災対策を検証する

第2回：水道

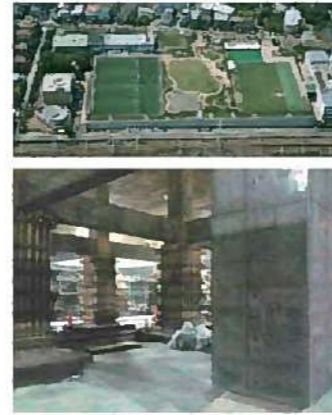
3大インフラと言われる電気・ガス・水道の
防災対策を検証しているシリーズ、第2回目は水道です。
災害時に備蓄すべきものとしてすぐに思い浮かぶ“水”。
今回は川崎市の上下水道局の職員の方に、市として取り組んでいる
耐震化や給水拠点の整備を中心に防災対策の現状や、
最新の取り組みなどをお聞きしました。

取り組み 1 配水管などの耐震化

表紙で紹介したように、避難所となる市立中学校や主な医療機関など防災上の重要な拠点への供給ルートの耐震化を進めています。

宮前区の鷺沼配水池や宮崎配水塔をはじめ市内の施設で、工事が進められており、平成28年度には耐震化率が66%になる予定です。

- ◆重要な拠点への供給ルート耐震化
市立中学校52カ所
医療機関77カ所
(平成25年度末整備状況)



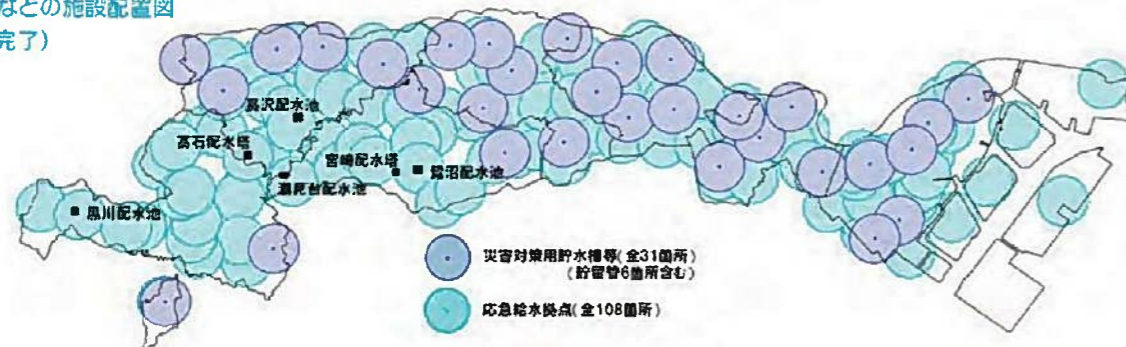
◆鷺沼配水池 耐震補強工事 (平成25~27年度)

取り組み 2 応急給水拠点の整備

平成25年度末までに市立中学校を中心に139カ所の設置を行い、半径750m以内で給水が受けられるようになりました。また、応急給水

拠点以外でも被災の状況に応じて、市内どこでも消火栓などを活用した臨時的給水拠点の開設を可能としています。

- ◆応急給水拠点などの施設配置図 (平成25年度完了)



- ◆災害対策用貯水槽の整備 31カ所整備(平成24年度)



- ◆応急給水拠点のマンホール



◀消火栓も臨時で給水拠点として使用

取り組み 3 運搬給水対策

給水タンク車や給水タンクを活用した応急給水体制を築いています。給水タンクは、トラックの荷台に設置することで、給水タンク車と同様に運搬給水を行うことができます。



◆給水タンク車 (4トン車2台/2トン車3台)



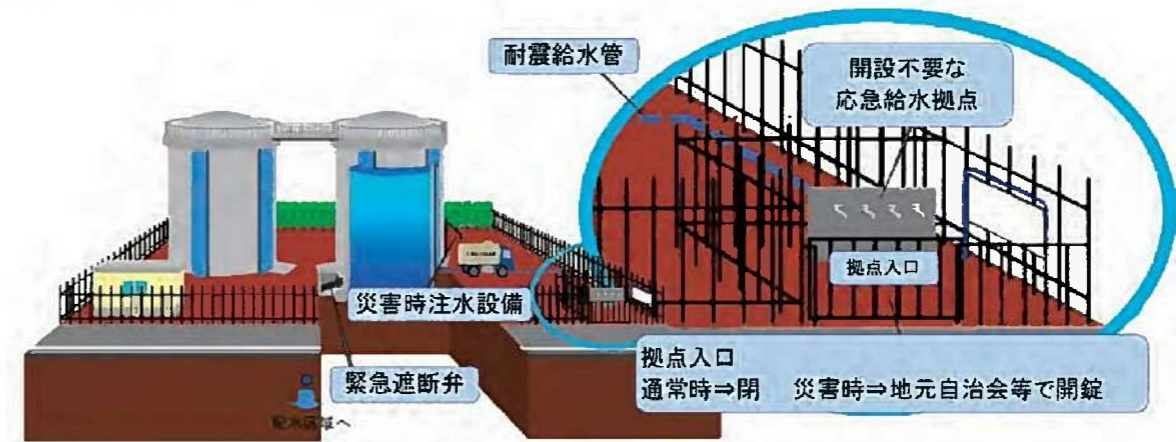
◆給水タンク (1トン81基)

取り組み NEW 4 新たな取り組み 開設不要な応急給水拠点

東日本大震災を踏まえ、応急給水拠点の確実性、利便性を高め、より迅速な応急給水の実現を図るため、配水池・配水塔と、供給ルートの耐

震化が完了した市立小中学校等を対象に、職員による開設が不要な応急給水拠点の整備を進めています。

- ◆職員による開設が不要な給水拠点の整備①
配水池・配水塔を利用した災害時注水地点に併設する方法 (平成26~30年度に7カ所の拠点を整備)



- ◆職員による開設が不要な給水拠点の整備②
供給ルートの耐震化が完了した小中学校などの既設給水栓を利用する方法 (平成26~38年度に30校程度の拠点を整備)

